

ニューズレター

News Letter

INSTITUTE FOR THE STUDY OF CHRISTIANITY AND CULTURE, Kanto Gakuin University

巻頭言

就任挨拶

所長 石渡 浩司
Hiroshi Ishiwata

前任の細谷早里先生の後を継いで、4月より所長に就任しました石渡浩司と申します。キリスト教と文化研究所は、1949年に発足したキリスト教研究所、そして1957年に発足した日本プロテスタント史研究所を前身とし、2001年に発足しました。この20年の間に、当初9人のみであった所員も現在は14人となり、学内の専任教員から成る研究員、それ以外の方から成る(主に学外の)客員研究員も合わせると、55人の研究者が所属する研究所となるまでに発展しました。



当研究所は、その名が端的に示している通り、以前あった研究所とは異なり、単にキリスト教研究に特化した研究所ではなく、「キリスト教との関連において、広く人文科学、社会科学、及び自然科学にわたって、学術の理論及び応用に関する総合的研究を行い、文化の創造と発展に寄与する」ことを目的とした研究所です(当研究所規程第2条)。キリスト教を建学の精神とする総合大学である本学にまさに相応しい研究所であると思います。

研究所には現在一つの研究プロジェクトと七つの研究グループがあります。バプテスト研究(プロジェクト)、キリスト教と日本の精神風土研究、奉仕・ボランティア教育研究、坂田祐研究、いのちを考える研究、新約研究、シェイクスピア研究、キリスト教と平和研究です。また、資料、広報、所報編集の三つの委員会があります。所員になられた方は、希望によってこれらのいずれかに所属しますが、そうでない方も、興味があるグループ/プロジェクトや委員会があれば、申請によって(客員)研究員となり、所属することができます。複数選択可です。それによってご自身の視野、研究の裾野を広げていただいたり、研究所の活動の一端を担っていただければ幸いです。また所員になられた方は、親しい、あるいは関係の深い方を(客員)研究員としてお誘いいただき、(申請により)新しい研究プロジェクト/グループを立ち上げて研究を進めることも可能です(プロジェクトの場合、多めに予算申請ができます)。是非上に述べました研究所の目的に沿ったご研究を推進していただけたらと願っています。私自身は、新約聖書学が専門なので、2015年に新約研究グループを立ち上げ、現在までその代表者となっています。

所員の皆様、関係者の皆様のお力添えをいただきながら、この研究所がその目的を十全に果たせるように、微力ながら努力していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

キリスト教と平和研究グループ

代表 豊川 慎
Shin Toyokawa



「キリスト教と平和」研究グループは現在、隔月の頻度で Zoom による研究会を開催している。日本のキリスト教会の戦争責任を主な共同研究テーマとし、特に中田善秋というキリスト者が遺した一次資料の分析を通じて、キリスト教の観点から平和構築および戦争罪責の問題を考察している。

本研究会の研究対象である中田善秋について若干の紹介をしたい。中田は牧師となるべく神学校で学んでいたが日本基督教団から推されて陸軍軍属の宗教宣撫班員としてフィリピンに派遣され、後にサンパブロ事件という住民虐殺事件に関与したとしてマニラの戦争犯罪裁判で BC 級戦犯として 30 年の刑期を言い渡され、その後スガモプリズンに移送され、スガモ内部で『信友』と題するキリスト誌を発行し続けたキリスト者である。

1941 年、当時神学生であった中田は日本基督教団教師 11 名とともに陸軍軍属の宗教宣撫班員としてフィリピンに派遣されたのであるが、そもそもなぜフィリピンに日本基督教団の教師が宗教宣撫班として派遣されたのか。それはフィリピンがキリスト教国（主にはカトリック）であるゆえ、カトリックとプロテスタントの宗教宣撫班員を通して、日本軍の目的は「占領」ではなく、「米国の植民地支配からの解放」であることをフィリピンの教会に伝えてフィリピンのキリスト者たちを日本側に懐柔する宣撫工作が有効と考えられたためであった。日本軍によるフィリピン占領の目的は米国によるフィリピン統治を一掃し、「大東亜共栄圏」にフィリピンを組み込むことにあり、大小数百を超えるフィリピンのプロテスタント教会を一つにまとめて合同教会を作り、アメリカの宣教母体からフィリピンのプロテスタント教会を独立させ、日本軍に協力的な教会を形成するための宗教宣撫工作が必要であると考えられたのである。その際に、まだ教師ではなく神学生ではあったが英語が堪能であった中田が宣撫班員に選ばれた。（日本基督教団のフィリピン宗教宣撫の詳細に関しては拙稿「平和の神学の課題としての戦争責任論—フィリピン宗教宣撫班員と戦犯とされた—キリスト者の手記に見る戦争罪責考」明治学院大学キリスト教研究所紀要、第 49 号、2017 年を参照されたい）。

BC 級戦犯となった中田は後にフィリピンからスガモプリズンに移送され、そこで「信友会」というキリスト者のグループを作り、『信友』と題するキリスト教新聞を発行し続けた。その内容は聖書講解、日本のキリスト教会の動向、講和問題や再軍備問題など様々であり、戦犯としてスガモの堀の内側から戦争と平和の問題を考え続けた。中田がスガモプリズンで発行し続けた『信友』はキリスト者個人がかの戦争を顧み、戦争犯罪、戦争罪責の問題、赦しや平和について考察を加えた興味深い資料である。本研究会の研究成果として客員研究員の内海愛子氏と山川暁氏と私が「解題」を付した『信友』がこの秋頃、不二出版社より復刻刊行される予定である。

研究会の発足当時より共同研究に参加くださり、日本のキリスト教会の戦争責任の問題の重要性を絶えずご教示下さった渡辺信夫先生（日本キリスト教会東京告白教会元牧師、カルヴァン研究者）が一昨年天に召され、本研究グループの客員研究員の山川暁氏も今年 7 月に召天された。渡辺先生が絶えず問うておられたのは、第二次大戦下において日本のキリスト教会が国策に迎合し、戦争協力に邁進した実情が今日、教会においてどれほど語られ、記憶にとどめられているかということであった。二度と戦争を引き起こすことがないよう歴史に学び、戦争の記憶と経験を神学的に考察することは戦後世代の平和の神学とキリスト教平和学の重要な課題であることを今後も研究会を通じて確認していきたいと思う。

現在、内海愛子氏、小塩海平氏、若井和生氏の 3 人の客員研究員に加えて、他大学の先生や NHK ディレクターの方など計 8 名程で共に研究活動を行っている。本研究会のテーマと研究会の様子については今年の 12 月 8 日に NHK「クローズアップ現代+」で報道特集される予定である。私と研究員の内海愛子氏と小塩海平氏が出演を予定している。ぜひご覧いただきたい。本研究会の研究成果として今後、『信友』の復刊出版を記念する講演会や論文集の刊行を計画していることも付記しておきたい。研究会のメンバーであった渡辺信夫先生と山川暁氏を偲びつつ。

所員紹介



藤田 潤一郎

Junichiro Fujita

私は、本学法学部の教員を務めています。大学院では西洋政治思想史を専攻していたことから、法学部では政治に関連する科目やゼミナールを担当しています。一方で、着任してから私の研究は西洋思想史に軸足を置くに至り、関心対象は時代を遡っていきました。具体的には古代ギリシアの思想、その後は旧約聖書の思想を研究しています。私にとって、眼前の言葉に向き合うことと、目の前の学生に向き合うことは繋がっています。

私は、日本基督教団に属しています。キリスト者は今ある教会を自明のものとしがちです。しかし、パウロが書簡を宛てたコリント（ギリシア）やガラテヤ（小アジア）の諸教会はもはや存在しません。それでも、名もなき写字生たちが書簡を書き写し続けたからこそ、パウロ書簡と総称される文書群は、今も存在します（ここでは個々の書簡の真偽については述べません）。さてキリスト教学校では、往々にして限られた人物に光が当てられます。とはいえ、戦前の関東学院には、困難な状況の中で、信仰者として、神学者として確固たる働きをした方々は少なくありません。過去の人間の存在は、今の我々の見えざる糧となっています。大学教員として、これから社会に歩み出す学生に向けてなすべきことをなし、己の研究を続けてゆこうと考えております。

新スタッフ着任のお知らせ

こんにちは。キリスト教と文化研究所事務局スタッフの飯島浩子、石川忍です。2名体制で書類作成、内外との連絡・調整等の業務を行っています。所員・研究員・客員研究員の皆様が研究に専念できるよう、環境づくりに努めております。

2012年度より当研究所にて事務を担当しております、飯島浩子です。関東学院大学の卒業生です。ご縁があり卒業後も母校と関わり続けることができ、嬉しく思います。

この4月より、菅野さつきさんの後任になりました石川忍です。私は、大学時代をこの関東学院大学で過ごしました。母校のお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

2001年10月13日に開所したキリスト教と文化研究所は、本年20周年を迎えます。設立以来、研究者の皆様が培ってきた研究成果や歴史を大切に、研究所運営に携わっていきたいと思います。まだまだ未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



関東学院大学 キリスト教と文化研究所

〒236-8501横浜市金沢区六浦東1-50-1

TEL：045-786-7873（研究所直通・月～金9：30～17：00）

FAX：045-786-7806（研究所直通・24時間受け付）

発行者：石渡 浩司

Director：Hiroshi Ishiwata